

Aくんを中心とした集団づくり

阿部 智恵美

社会福祉法人楡の会 児童発達支援センターきらめきの里

1) はじめに

児童発達支援センターきらめきの里 すいかクラスは、知的に遅れのある年長児 8 名が在籍しています。発達の段階には差があり、対大人との関わりが必要な児や、友達に気持ちが向き始めている児も居ます。今回は友達との関わり・集団での遊びが課題のGくんに対する支援を、クラス全体への支援として取り組んできた事について実践報告していきます。

2) Aくんとの関係作り

Aくんは、児童発達支援センターに通い始めて 3 年目のお子さんです。我が強く、何事にも全力で、自分の気持ちが伝わらない時に他児者の髪の毛を引っ張る、叩く、蹴るなどの行動が見られました。Aくんとは、通園バスの中、自由遊びの中で一緒に遊ぶ事がある程度で、今年度初めて担任として関わる事となりました。

今まで関わりの薄かった担任に対し、Aくんが不安を感じ、登園を渋る事が予想されました。そのため新しい担任の自己紹介と共に「すいかクラスの写真」「担任の写真」をカードにしクラス・担任が変わった事をクラス全員に伝えていきました。今までとは違う環境にドキドキしながらも、Aくんを含めクラス児全員行き渋りは無く落ち着いて登園する事が出来ました。

療育が始まりAくんが担任に「持って帰ってもいいですか」とブロックや療育の中で楽しく遊んだ物を持って帰る事が続きました。Aくんの物ではない為、持って帰る事は出来ない事を伝えると、Aくんは泣き、担任を叩き、走って逃げ自分の鞆やズボンのポケットに入れようとしていました。そんな様子のAくんに対し「楽しく遊んだね。持って帰りたいか」と気持ちを言い当て「こっちならいいよ」とAくんが持って帰らなかった物を紙で作って渡す事を継続していきました。現在では、新聞紙でブームの物（シンデレラの靴、剣、王冠等）と一緒に作り満足するまで遊び、玩具を持って帰りたいという事は無くなりました。

また、何かをしたい時には周りの職員や母にも協力してもらい担任に確認する事を徹底していきました。言葉で要求を伝え、担任が応え “伝わった” 経験を積み、担任は自分の気持ちを “わかってくれる人” という関係を作っていました。

3) AくんとBくんの関係 仲直りの大切さ

同じクラスのBくんとは、タイミングが合うと楽しく遊ぶ事が出来ますが、互いに相手の気持ちがわからない時や自分の気持ちを言葉に出来ない時に手が出てしまいます。

自由遊びの時間、AくんはBくん「遊ぼう」と声を掛けましたが、Bくんはミニカーで遊んでいた為Aくんの声掛けを無視しました。Aくんは「B、遊ぼう」ともう一度声を掛けましたが「あっち行って」とYくん「手で払われ、咄嗟にAくんは叩き返してしまいました。職員はAくんを止めに入りますが、止められた事が嫌でAくんは職員の髪の毛を引っ張り、叩きました。担任はAくんと別室に移動し “なぜ叩いたのか” “なぜ怒っているのか”を確認したところ、Aくんは上手く言葉で説明が出来なかった為、状況を見ていた職員が代弁し担任に教えてくれました。担任がAくんの気持ちを受け止めるとAくんが「Bとケンカしたい」と言いました。状況を聞き、Aくんの言葉を聞いた担任は「手で払われたから、仕返しにBを叩きたい気持ち」と “本当はBと一緒に遊びたい気持ち” が「Bとケンカしたい」という言葉に隠れていると考えました。そのため、「ケンカしたかったんだね」ではなく「そっか。戦いごっこしたかったんだね」とBくんと一緒に遊びたかった気持ちを汲み取り代弁し、遊びに誘ったけど断られた悲しい気持ちを、時間をかけて受け止めていきました。徐々に落ち着いてきたAくんは “手で払われたから、やり返したい気持ち”ではなく「Bと遊びたかった」という本当の気持ちを言う事が出来ました。その時に「遊びたかったね。遊ぼうって

言えたけど遊ばなくて悲しかったね」と気持ちを受け止めると、怒っていたAくんは悔し泣きを始めました。

Bくんにはもう一人の担任が付き、叩かれた嫌な気持ちを受け止める事と、Aくんの気持ちを伝えていきました。担任と個別に話す事で落ち着いたBくんはAくんの元に来て「ごめんね」と自分から伝える事が出来ました。担任にしっかりと気持ちを受け止めてもらったBくんはAくんに会っても叩こうとする事は無く、Aくんも「ごめんね」と言葉で伝える事が出来ました。担任に仲直りの握手を促され握手をすると、その後は仲良く一緒に追いかけて遊ぶ事が出来ました。

AくんとBくんは言葉で自分の気持ちを伝える事が出来るようになってきましたが、相手の気持ちを考える事が難しい時もあります。気持ちのすれ違いがあった時には担任が間に入り“叩いた事を叱る”のではなく“何がしたかったのか”を聞き、「～したらよかったね」と適切な行動や言葉を伝えるように関わっています。また、仲直りが子ども達に分かりやすく伝わるよう、「ごめんね」の言葉だけでなく、握手やハグで伝えるように促しています。少しずつではありますが、AくんもBくんも叩く事ではなく、言葉で自分の気持ちを友達に伝える事が出来るようになっていきます。更に、同じクラスの児に対しても泣いている児の頭を撫で、ぎゅっと突然抱き着いてきた児に対しても怒らず「Aくん大好きって言ってるよ」という担任の言葉を聞き優しく受け入れる、朝の会等で座らない児に対し「座りたくないのかな」「やりたくないって言ってるんじゃない？」と相手の気持ちを代弁する様子も見られるようになってきました。

4) まとめ～集団に向けての取り組み～

友達と楽しく遊ぶ、集団遊びのルールを知る事が課題のAくんに対し、4月からクラス全体で「だるまさんがころんだ」や「むっくりくまさん」「なべなべそこぬけ」など簡単なルールのある遊びを継続して行っています。クラスの小集団で繰り返し同じ遊びを継続する事で、昼の自由遊びの時間にAくんやBくんから「だるまさんしよう」「むっくりくまさんしよう」と他クラスの児や職員を誘い掛ける事が増えました。個別の課題に対する支援として始めた集団遊びでしたが、最初は集団遊びに参加する事が難しかったクラスの児も今では「ダウマサンコーダ」「モーイーヨ」などの言葉が出る、自分なりに遊びに参加する事が出来るようになっていきます。今後も、Aくんを中心としてクラスの児が友達と遊ぶ事が楽しいと思える経験が積めるよう、集団遊びを継続していきたいと思っています。

今後の展開方法について、AくんやBくんに合わせた療育内容を設定していく事が良いのか、他の子ども達に合わせ展開をしていく事が良いのか、他の方法があるのかご意見・アドバイスをお伺い出来ればと思います。また、集団遊びへの取り組み、友達の遊びに気持ちを向ける為の取り組み、支援方法の成功例などについても皆さんと意見交換をしたいと思います。